

平成元年度・北海道に発生した森林昆虫

北海道森林昆虫談話会 文責 小 泉 ちから
(1990. 4. 4 受理)

はじめに

平成元年度に北海道で発生した森林昆虫の発生状況について、北海道林務部道有林管理室・同森林整備課・北海道営林局・函館・旭川・帯広・北見各営林支局・北海道林木育種場・大学演習林・山林所有者からの発生報告、同定依頼、それに北海道立林業試験場・森林総合研究所北海道支所の調査観察をもとにして、第5回北海道森林保護会議（平成2年3月8～9日開催、25回北海道森林昆虫談話会）で取り纏めた。

主な昆虫の発生動向

平成元年度の森林昆虫の発生概要は表1～7に示した。表は過去に北海道で発生したことのある主な昆虫名・加害樹種をあげ、当該年度に発生した発生地・発生区域面積（ha、苗畑はm²）と発生の様相を記載した。

苗畑の昆虫：トドマツノハダニ、ヒメカサアブラムシの発生が一部苗畑で認められた。アカヒゲホソミドリメクラカメムシは苗畑跡地の草本類で多く発生したことが報告されたが、林木被害には関係のない昆虫である。

吸汁性の昆虫：トドマツ・エゾマツ・アカエゾマツに寄生するオオアブラムシ類の発生は全体的に減少傾向を示している。従って防除面積も減っている。しかし幼齢造林地での主要な害虫であることに変わりない。トドノネオオワタムシは秋にトドマツからヤチダモに移住する（雪虫）が、翌年の春に新葉に寄生して、被害葉は捲き縮み、鳥の巣のような形をする。各地で観察されるが幼齢造林地では上伸生長が阻害されることもあるので注意してほしい。

虫こぶ形成昆虫：エゾマツカサアブラムシは各地のエゾマツ造林地で見られ、単木的に相当数の虫こぶが付いているものもあるが、特に大発生している所は無いようである。エゾマツシントメタ

マバエは幼虫が新芽に寄生して扁平な丸い虫こぶを造る（写真-1）。苫小牧地方など幼齢造林地で多く見るが、なれないと見落とす。



写真-1 エゾマツシントメタマバエの虫こぶ

食葉性の昆虫：トウヒノハバチは札幌市・苫小牧市で小発生したのが見られた。エゾマツハバチは昨年が続いて函館市のアカエゾマツ造林地で発生が認められた。ミスジヒメカラマツハバチは従来の発生が多く見られている地域で微害程度であった。潜土幼虫の密度は少なくないのであるが、大発生はしていない「道立林試；原秀穂観察」。

オオアカズヒラタハバチは2年おきに多く出現するものようで、元年度の発生は少ないが2年度には成虫の多発生が予想されている。

ミスジツマキリエダシヤクは札幌市のほか、道東地方の北見市・端野町・美幌町のカラマツ造林地に大発生した。幼虫の食害は7月中～8月中旬

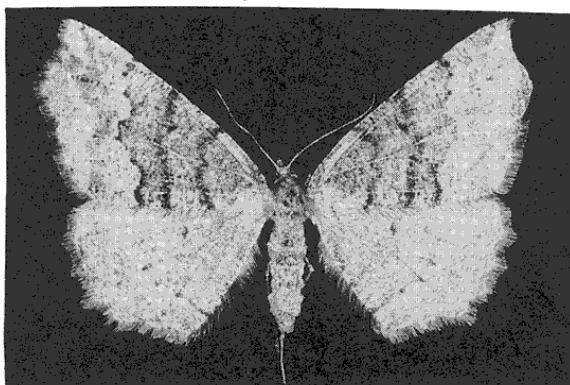


写真-2 ミスジツマキリエダシヤク成虫

で、針葉の赤変は8月ころから目立つようになる。この虫の成虫は6月ころ林内の地表部を日中にとぶ。白い中ほどの蛾で、前翅に3条の線を見ることが出来る(写真-2)。成虫が沢山林内をとんでいる時にはその後の食害に注意するように。

ツガカレハは佐呂間町のヨーロッパトウヒ防風林で高い密度の発生が認められた。ハンノキハムシは浦河町・静内町など日高地方と、洞爺・大滝村・余市町などに広く発生しているのが観察された。なお道央地方でしばらく続いていたカラマツイトヒキハマキの発生は終息したようである。また、昭和61~63年に大発生したマイマイガの発生も終息したが、この食害でヨーロッパトウヒの壮齢木が枯れ(写真-3)、ダケカンバの枝が部分的に枯死した(写真-4)ものを観察した。



写真-4 マイマイガの食害で枯れたダケカンバの枝部

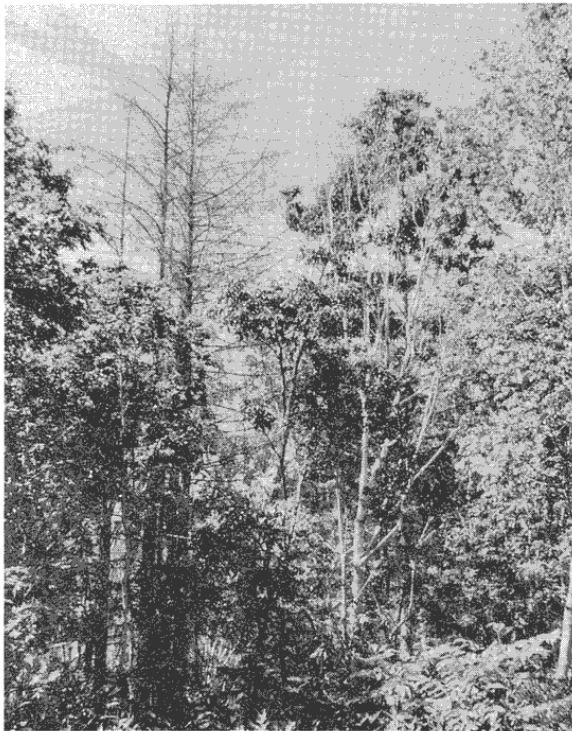


写真-3 マイマイガの食害が枯れたヨーロッパトウヒ

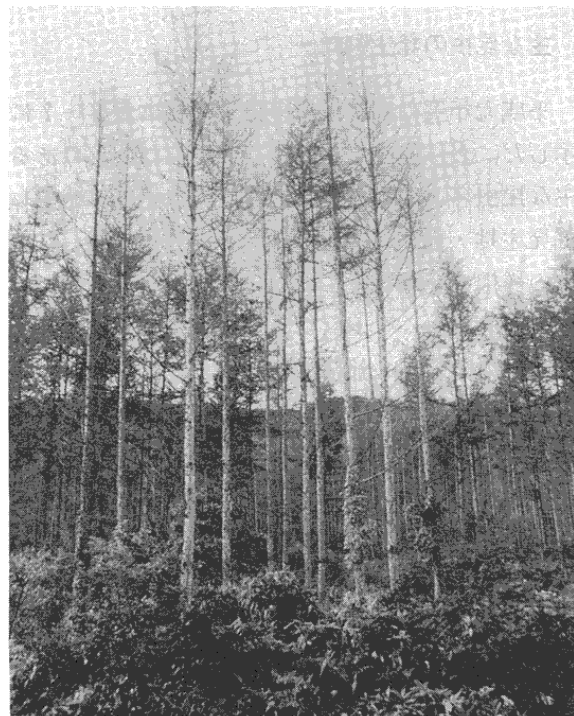


写真-5 集団状に枯れたカラマツ造林木

新梢・球果の穿入昆虫：マツノシンマダラメイガは海岸林(えりも町)のクロマツの新梢部に穿入して髓部を加害、このため摘枝防除を行なった。

ミズナラの球果にサンカクモンヒメハマキの幼虫食害と、シギゾウムシ類の産卵加害を観察した。

穿孔性の昆虫：カラマツヤツバキクイムシが各地のカラマツ林で発生しているのを散見したほか、赤井川村ではマイマイガの発生跡地で集団状の被害発生が認められた(写真-5)。トドマツ・エゾマツ天然林では点々と枯れている樹木を見る

が、これらの樹にはキクイムシ類・カミキリムシ類の加害が必ず認められる。なお葉がらし伐採の方法を実行される時には、穿孔虫被害の比較的小さい8月下旬以降に伐採するか、どうしてもこの時期以前に実行する時には、伐採跡地の残存生立木の穿孔虫加害にも十分に配慮して、伐倒丸太は剥皮を行なうか、MEP乳剤を丸太の下部になる所まで、十分に散布するなどが必要である。

平成元年(1989)1~12月に発表された関係文献

秋田米治：トドマツ幼齡林の樹上と地表植生のクモ相について，日林北支論37；102~104
 ——：クモの満腹後の捕食活動について，森林保護214；47
 尾崎研一：エゾマツカサアブラムシ幹母の密度依存的死亡と産卵，63年度応動昆北支講
 ——・小泉 力：エゾマツカサアブラムシのゴールがエゾマツの生長にあたる影響，日林北支論37；107~108
 上条一昭：球果を加害する蛾類幼虫の見分け方，光珠内季報76；15~19
 北川善一：カラマツヤツバキクイムシの発生調査，道林務部林業振興課，63年度林業専門技術員調査研究報告書；28~44
 北原 曜：凍裂を覚えてくれた蝶，森林保護214；47
 工藤慎一・前藤 薫・尾崎研一：オオアカズヒラタハバチの保護行動，63年度応動昆講
 小泉 力：北海道における森林昆虫の発生型，62年度林試北支場年報；64~66
 ——・佐々木克彦・中津 篤：北海道森林保護会議(第4回)報告，森林保護210；9~10
 ——：北海道におけるマイマイガの発生経緯，森林保護212；31~32
 ——：マイマイガの食害後に発生したカラマツヤツバキクイムシの被害，森林保護214；47
 佐々木克彦・中津 篤・小泉 力：平成元年度北海道森林保護事業推進協議会(第11回)報告，森林保護213；33~35
 沢田逸男・飯田敏仁：蜂災害の危険予知について，函館営林支局63年度34回業務研究発表集；87~90
 鹿戸輝雄：浦河町におけるカラマツヤツバキクイムシの発生消長調査，63年度林業技術研究発表論；150~151
 関 弘道：コメツガクチブサガによる被害状況，旭川営林支局35回業務研究発表集録，63年度；37~40
 館 和夫：道内のスギノアカネトラカミキリの被害と対策，

光珠内季報77；14~17
 武田善直・関谷 敦：スズメバチ誘引捕殺法に関する一考察，帯広営林支局63年度業務研究発表集；131~136
 千葉 博：マイマイガの生活史と防除，山つくり 63年度後志・空知・石狩地域版；8
 富樫則夫・佐々木満：マイマイガ幼虫の薬剤防除試験，63年度林業技術研究発表論；152~153
 西谷敏美・和島武光・亀山義松・大瀬敬志・近藤昭夫：蜂刺され防止対策，旭川営林支局35回業務研究発表集録，63年度；127~129
 原 秀穂：シラカンバの形成層潜孔虫ミノドヒラタモグリガの生態，63年度応動昆講
 ——：カラマツキハラハバチの成虫羽化時期，森林保護209；4~5
 ——：カラマツの食葉性害虫の被害発生時期と被害の予察，山つくり321；13
 東浦康友：マイマイガの産卵場所選択の集団遺伝学モデル，63年度応動昆講
 ——：マイマイガ産卵場所えらび~積雪の有無と鳥の捕食と~，インセクトリウム26(7)；204~211
 北海道森林昆虫談話会：昭和63年度・北海道に発生した森林害虫，北方林業41(8)；16~21
 前藤 薫・高橋邦秀・林 康夫・尾崎研一・小泉 力：カラマツヤツバキクイムシ埋め込みによるカラマツの萎凋，63年度応動昆講
 ——・尾崎研一・小泉 力・秋田米治：オオアカズヒラタハバチの研究(Ⅲ)~潜土幼虫の分布様式~，日林北支論37；105~106
 ——：オオアカズヒラタハバチの発生を予測する，森林保護210；16
 牧野俊一：林業におけるスズメバチ類の刺傷害，森林保護211；20~21
 森谷幸隆・広沢武司・竹田繁義：蜂刺され災害防止対策，旭川営林支局35回業務研究発表集録，63年度；146~149

(森林総合研究所北海道支所)

平成元年度 森林昆虫の発生概要 (北海道)

表-1 苗畑に発生した昆虫

種 類	加 害 樹 種	発 生 地 (市町村・発生面積㎡) 摘要
トドマツノハダニ	トドマツ	上湧別町
ヒメカサアブラムシ	トドマツ	本別営林署(本別町4,360)
エゾマツノメイガ	トドマツ他	幼虫が地表面の幹をリング状に食害する
ヨトウガ類	針広	今回報告はないが，時々見られる

アカヒゲホソミドリメクラカメムシ		倶知安営林署（倶知安町200）苗畑跡地で林木の被害はない
コガネムシ類	針広	報告なし

表一 2 オオアブラムシ類の発生と防除面積 (ha)

所 管	トドマツオオアブラムシ		エゾマツオオアブラムシ		摘 要
	発生面積	防除面積	発生面積	防除面積	
北海道局	693.08	635.53	390.41	434.07	国有林の防除は前年の発生調査にもとずいて要防除地を当年に実行した。
函館支局	143.00		43.00		
旭川支局					
帯広支局			452.00		
北見支局					
小 計	836.08	635.53	885.41	434.07	
道 有 林	205.24	195.84	530.88	498.24	
民 有 林	197.41	144.85	84.37	84.37	
小 計	402.65	340.69	615.25	582.61	
合 計	1238.73	976.22	1500.66	1016.68	

表一 3 吸汁性の昆虫

種 類	加 害 樹 種	発生地 (市町村・発生面積ha) 摘要
スギノハダニ	スギ	道南地方のスギ林に分布していると思うが、昭和52年に多発生してからは、発生の報告はない
トドマツノハダニ	トドマツ	造林地で時々、単木的な発生を見るが、多く発生している所はないようである
トドワタムシ	トドマツ	針葉の基部に寄生、開葉期に寄生部分の新葉がねじれる
トドノネオオワタムシ	トドマツ (ヤチダモ)	トドマツからヤチダモに移住する産性虫を雪虫と呼ぶ。ヤチダモの葉に寄生して鳥巣状の偽虫えいを造っているのを各地で観察した。
カラマツオオアブラムシ	カラマツ	報告なし
カラマツカサアブラムシ	カラマツ グイマツ	報告ないが、針葉に寄生して白色の蠟物質をだしているのを各地で観察

表一 4 虫こぶ形成昆虫

種 類	加 害 樹 種	発生地 (市町村・発生面積ha) 摘要
ヒメカサアブラムシ	アカエゾマツ・トドマツ	時々見られるが、多く発生している所はないようである
エゾマツカサアブラムシ	エゾマツ	各地のエゾマツ林で観察、単木的に多く寄生しているものもあるが、全体的には低密度の発生のようなものである
トドマツノタマバエ	トドマツ	報告はないが太平洋岸などに発生が続いているものと思う。被害葉はくの字に曲がる
マツバノタマバエ	クロマツ	道南地方で低密度の発生
スギタマバエ	スギ	報告はないが木古内・八雲など道南地方で低密度の発生
エゾマツシントメタマバエ	エゾマツ アカエゾマツ	江別市の庭木、苫小牧営林署（苫小牧市）幼虫が新芽に寄生して扁平な虫こぶを造る
カシワハナフシ	カシワ	各地の海岸林で見られる

表一5 食葉性の昆虫

種 類	加 害 樹 種	発 生 地 (市町村・発生面積ha) 摘要
トウヒハバチ	トウヒ類	札幌市の樹木園, 苫小牧市の道路分離帯
エゾマツハバチ	アカエゾマツ	函館林務署 (函館市12.48) 当年の葉を食害する
カラマツキハラハバチ	カラマツ	清水町 (10.00)
カラツハラアカハバチ	カラマツ	発生報告なし
ミスジヒメカラマツハバチ	カラマツ	胆振地方など従来発生が認められている地域で微害程度の発生, 潜土幼虫の密度は少なくないことが観察されている
ハンノキハバチ	ハンノキ類	報告なし
ポプラハバチ	ポプラ類	報告なし
シラカバノクロボシハムグリハバチ	カンバ類	報告はないが, 各地のカンバ林で観察される
ハムグリハバチの1種	シナノキ	報告なし
キイロアシブトハバチ	カンバ類	報告はないが, 札幌市などで観察
オオアカズヒラタハバチ	エゾマツ アカエゾマツ	岩見沢営林署 (由仁町), 恵庭営林署 (千歳市) 前年の発生地で継続発生, 当年の成虫出現は比較的少ないが, 平2年には多いことが予想される
カラマツツツミノガ	カラマツ	報告なし, 開葉まもない針葉が赤変する
カラマツイトヒキハマキ	カラマツ	富良野市 (0.50), 前年まで旭川・南富良野など道央地方に広く大発生していたが, 発生報告なく終息の様子
モミコスジオビハマキ	トドマツ	前年までの発生地でも減少の様子
マツアトキハマキ	トドマツ	報告なし
トドマツアミヒメハマキ	トドマツ	報告なし
コメツガクチブサガ	トドマツ	報告はないが, 前年までの発生地では密度低下しているものの継続発生の様子
マエアカスカシノメイガ	ヤチダモ	報告はないが, 所どころで観察
オオクシヒゲシマメイガ	ミズナラ	報告なし
ミスジツマキリエダシヤク	カラマツ	札幌市 (187.60), 美幌町 (5.44), 北見市 (16.68), 端野町 (23.08), 食害時期は8月ころから目立つ
オオチャバネフユエダシヤク	トドマツ	報告なし。トドマツのほかカラマツにも多発することがある
チャバネフユエダシヤク	広	イタヤカエデ・ミズナラその他広葉樹に多く発生することがある
ナミスジフユナミシヤク	ミズナラ	報告なし
ブナアオシヤチホコ	ブナ	報告なし。しばらく大発生をしていないので発生する所があるかも知れない
セグロシヤチホコ	ドロノキ	佐呂間町 (0.36)
マツカレハ	マツ類	報告なし
ツガカレハ	ヨーロッパトウヒ	佐呂間町 (4.08), 生息密度の高い発生
キアシドクガ	ミズキ	報告なし
ヤナギドクガ	ポプラ・ヤナギ類	報告なし
マイマイガ	広・カラマツ他	61~63年度の大発生も終息した様子。食害によりヨーロッパトウヒの枯損木とダケカンバ天然木が枝部を部分的に枯らしているのを観察する
キバネセセリ	ハリギリ	報告なし
オオスジコガネ	トドマツ他	報告なし。平2年には発生する所があるかも知れない

スジコガネ	トドマツ他	報告なし
ハンノキハムシ	ハンノキ類	浦河営林署(浦河町13.16), 静内営林署(静内町9.236.60), ほか に洞爺村・大滝村・余市町などで多く発生しているのを観察した
アカタマゾウムシ	ヤチダモ	報告なし

表一六 新梢・球果の穿入昆虫

種 類	加 害 樹 種	発 生 地 (市町村・発生面積ha) 摘要
カラマツタネバエ	カラマツ	報告はないが, 球果を加害する昆虫は多く, 現在, 道立林試で研究を進めている
マツツマアカシムシ	クロマツ	報告はないが海岸林などでみられる
マツノシンマダラメイガ	クロマツ	浦河営林署(えりも町1.54), その他の海岸林でも見られる
サンカクモンヒメハマキ	ミズナラ	ドングリを加害しているのを観察
シギゾウムシ類	ミズナラ他	ドングリを加害しているのを観察

表一七 穿孔性の昆虫

種 類	加 害 樹 種	発 生 地 (市町村・発生面積ha) 摘要
トドマツノキバチ	トドマツ エゾマツ	樹幹に産卵され, 幼虫は辺材部を加害する。一世代を経過するのに2~3年を要する
コルリキバチ	トドマツ エゾマツ	上記のキバチと同様に樹幹部を加害する新築住宅の柱材などから成虫が出現することがある
キマダラコウモリガ	スギ・その他広	道南地方で散見される
コスカシバガ	サクラ	札幌市の公園樹
ヒノキカワモグリガ	スギ・ヒノキ他	札幌市(森林総研の樹木園)
シラカバナガタマムシ	シラカンバ	報告はないが, 道央・道東地方で見られるもよう。被害は幼齢木に多く認められ加害された樹幹部は著しく肥大・変色する
スギノアカネトラカミキリ	スギ	当年の発生報告はないが, 前年までの発生地で継続発生していると思う
マルクビヒラタカミキリ	カラマツ	報告なし。カラマツヤツバキクイムシとともに寄生するかも知れない
シラフヨツボシヒゲナガカミキリ	トドマツ エゾマツ	報告はないが道内の針葉樹天然林などに普通に見られ, 成虫は6~8月に出現して, 幼虫は樹皮下と材中を加害する
トドマツキボシゾウムシ	トドマツ	被圧され衰弱したトドマツ造林木に集中して加害することがある
マツキボシゾウムシ	マツ類	衰弱した林木に寄生加害
ヤナギシリジロゾウムシ	ヤナギ類	道央地方の河川敷などで時々みられる
カラマツコククイムシ	トドマツ	羽幌営林署(羽幌町3.16)。春に乾燥した日が長く続くと幼齢造林木は衰弱する。これに低密度で寄生, 多くの林木を枯らすことがあるので注意が必要である
トドマツククイムシ	トドマツ	報告はないが, 各地の天然林・人工林で被害枯損木を観察できる
エゾマツククイムシ	エゾマツ	〃
ヤツバキクイムシ	エゾマツ	〃
カラマツヤツバキクイムシ	カラマツ	端野町(4.52), 赤井川村(12.00) 赤井川村では雪害とマイマイガの食害跡地で衰弱した造林木が本種の寄生加害を受け集団状に枯れた。このほか報告されていない所でも小発生しているのが観察される